

## 護法天堂案内看板

護法天堂が建立されたのは十七世紀初頭のこと。この場所は、もともと輪王寺門跡の私有地の一部分でありました。門跡は皇族の(中から)任命される、非常に高位の僧侶です。輪王寺門跡は輪王寺だけでなく、東京の寛永寺、京都近くの延暦寺における権限も与えられました。そう行った重要な役割を果たすため、門跡には個人的な祈りの空間が必要でした。それがこの護法天堂なのです。1871年にこの場所を火災が襲い、護法天堂と黒門を除く建物が全焼しています。

護法天堂は、もともと「毘沙門天」、「大黒天」と「弁財天」の三天を祀っていました。この三天は、それぞれ「千手観音」、「阿弥陀如来」と「馬頭観音」という輪王寺の三仏をより親しみやすくしたものと考えられています。この三天は、仏陀の法と原理を守護する護法天という神々のグループの一員でした。護法天堂は、これにちなんで名前がつけられました。